

日本家族社会学会ニュースレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 50

2013年5月14日発行

編集 野沢慎司(庶務委員・広報担当)

発行 日本家族社会学会事務局

〒631-8502 奈良市山陵町1500 奈良大学 社会学部 宮坂靖子研究室

TEL & FAX : 0742-41-9565

会長挨拶

渡辺秀樹(日本家族社会学会会長/慶應義塾大学)



今期の理事会の任期は、今秋の静岡大学での学会大会までとなります。3年目の重要な仕事はこれからですが、ニュースレターでの挨拶は今回が最後となります。第7期理事会による総括をしっかりとおこなって、次期に引き継いでいきたいと思っています。会員の活発な研究活動や学会への協力に敬意を表します。より一層の学会への関心と取り組みをお願いしたいと思います。

これからすぐに、次期の理事選挙があります(3頁参照)。是非、投票をしていただきたいと思います。投票率の低さを嘆かず済むことを願っています。

投票は、選ばれた理事役員による学会運営に関心を持ち、会員と理事会との間の距離を感じないための第一歩だと思います。関連して、今号では、会員アンケートの結果の報告が載っていますが、回収率の低さが気になります(9頁)。回収数を増やす調査方法の工夫とともに、会員自身の積極的な参加を願っています。

2014年の世界社会学会議・横浜大会での報告申し込みに関する記事も載っています(7、8頁)。すでに何件の会員の報告予定が入っていますが、さらに、大学院生をはじめ多くの参加を期待しています。学会の発展の重要な契機ともなるのではないのでしょうか。

===== 目 次 =====	
会長挨拶	1
日本家族社会学会第23回大会のご案内	2
第8期理事選挙のご案内	3
理事会報告(議事録抄)	3
各種委員会報告	6
編集委員会	6
研究活動委員会	6
庶務委員会	7
全国家族調査(NFRJ)委員会	7
社会学系コンソーシアム集大成事業編集委員会	8
事務局だより	8
第6回日本家族社会学会賞(奨励論文賞)について	8
会員アンケート結果	9
会員異動	12
編集後記	12

日本家族社会学会第23回大会のご案内

船橋恵子（第23回大会実行委員長／静岡大学）

本年9月、第23回大会を静岡大学（静岡キャンパス）で開催させていただくことになりました。地方大学で施設設備的に十分とはいえませんが、富士山を間近に眺め、新幹線で東京や名古屋から1時間の距離にあり、ゆっくり宿泊してもよし、お忙しい方は日帰りしてもよし、便利などころではないかと思えます。

静岡は、食べ物が豊富で美味しいところです。お茶と和菓子は言うまでもなく、しらす、桜エビ、鱈やマグロをはじめとした新鮮な海の幸は、刺身にも鮨にも天ぷらにも良く、特産のわさびとともに地域のさわやかな日本酒を冷やでいただくと最高です。春のいちごは有名ですが、9月には梨やメロンなどの初秋の果物も味わえるでしょう。質の高い学問的議論の後に、ぜひお楽しみください。また、ゆっくりされる方は、近くの日本平、久能山東照宮、三保松原、登呂遺跡、徳川家康が晩年を過ごした駿府城公園などを訪ねることをお勧めします。博物館や美術館も付設されています。芹沢銈介美術館も人気スポットです。

委員会は、船橋のほか、南山浩二（成城大学、静岡在住）、吉田崇（静岡大学）、笹原恵（静岡大学、浜松キャンパス）、冬木春子（静岡大学）、犬塚協太（静岡県立大学）、庭野晃子（静岡県立大学短期大学部）、今福恵子（静岡県立大学短期大学部、非会員）の各氏からなります。詳しいご案内は、今後の大会ニュース、メールマガジン、大会オフィシャルサイト（学会ウェブサイトの「学会大会／研究活動」ページからアクセス）などで順次お知らせして参りますので、どうぞご確認ください。本大会で充実した研究報告と活発な議論が展開されますように、スタッフ一同その環境作りに鋭意取り組んで参ります。多くの会員・非会員のみなさまにお会いできますことを楽しみにしています。



現在までに決まっている大会開催の概要について以下に記します。

1. 会期： 2013年9月7日（土）～8日（日）
2. 会場： 静岡大学・静岡キャンパス 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836
JR 東海道線・新幹線「静岡駅」から静鉄バスで25分

※ 交通路の詳細及び大学周辺地図は、大会オフィシャルサイト及び大会ニュース No.2 でお知らせします。

3. 参加費等：

大会参加費、懇親会費、弁当代等に関しては、以下の通り予定しています。納付方法や時期などの詳細については、大会オフィシャルサイト及び7月発行予定の大会ニュース No.2 でお知らせいたします。

	大会参加費			懇親会費			弁当(予約制)*	
	事前納付		当日払い	事前納付		当日払い	事前納付のみ	
	郵便振替	カード		郵便振替	カード		郵便振替	カード
一般	3,500円	3,675円	4,500円	4,000円	4,200円	5,000円	1,000円	1,050円
学生	2,500円	2,625円	3,000円	2,500円	2,625円	3,000円	1,000円	1,050円

*大学周辺に食堂やコンビニが全くなく、日曜は生協も閉まりますので、お弁当をご予約ください。

4. 宿泊：

宿泊情報の提供や、宿泊に関する便宜提供はいたしませんので、各自で手配してください。

5. 託児サービス：

大会中、学内の多目的保育施設「たけのこ」をご利用いただけます。利用料は、1人1日2,000円、半日1,000円の予定です。詳細については、大会オフィシャルサイト及び大会ニュース No.2 を通じてお知らせします。

6. 大会に関するお問い合わせ：

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学人文社会科学部 船橋恵子研究室内

日本家族社会学会第23回大会実行委員会 e-mail：

ただしウェブ上での大会報告申し込み、参加登録、事前納付などについてのお問い合わせは、以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いいたします。

e-mail：

fax：03-3368-2827

第8期理事選挙のご案内

宮坂靖子（事務局長／奈良大学）

本年度は、3年に1度の理事選挙の年です。選挙に関してはこれまでと同様、会員による郵送投票にて行います。

本学会では、「日本家族社会学会理事選挙規定」により、2013年4月1日現在で、2012年度までの会費を完納している方に選挙権があります。2013年度から入会された方には、今回の選挙に関する選挙権はありません。先に、会員の皆様あてに「日本家族社会学会第8期理事選挙 選挙権・被選挙権者名簿」をお送りしましたのでご確認をお願いいたします（なお、名簿確認期限は5月17日(金)となっております）。

被選挙権については、通算3期理事を務めた者及び顧問には被選挙権がないほか、学会理事会が定めた特定の理事に被選挙権がありません。後者は学会理事会の継続性を考えた措置です。

選挙区は、「第1区」（北海道・東北・関東・甲信越）と「第2区」（近畿・東海・北陸・中国・四国・九州〈含む沖縄〉）に分かれており、理事の定数は各区とも8名となっています。選挙区は有権者の4月30日時点での所属機関（所属機関のない者は、居住地）で定められます。所属する選挙区においてのみ投票ができます。

投票は3名連記の無記名投票で行われ、得票数の多かった会員が第8期理事となります。理事選挙後、会長選挙が行われます。新会長候補者は新理事の投票によって選出されます（理事の互選ではありませんので、理事以外の会員が選出されることもあります）。会長候補者は総会での承認をもって新会長に就任し、総会後に第8期理事会が発足します。

投票用紙等は5月末発送の予定で、投票の締め切りは6月18日（火）必着となります。会員の皆様には、理事選挙に必ずご投票くださいますようお願いいたします。

理事会報告

2012年度第3回理事会(第7期第8回会合)議事録(抄)

(略)

各種委員会報告

編集委員会

編集委員会は、昨年9月から編集作業に取りかかった25巻1号を4月末に刊行し、現在は2号を10月刊行にむけて編集中です。1号には、論文11本が投稿され、厳正な査読と委員会での審査により論文2本の掲載を決定しました。そのほかに、巻頭言（酒井はるみ先生）、会長講演（渡辺秀樹先生）、特集（学会大会シンポジウム報告・コメント・趣旨説明）、書評・文献紹介6本となり、大変充実した内容です。

また、2号は第7期編集委員会が刊行する最後となりますが、査読中の投稿論文・研究ノートのほかに、巻頭言（遠藤恵子先生）、NFRJ コーナー、特集を企画中です。

昨年秋に行われたアンケート結果への回答は他項に譲りますが、今期編集委員会としていただいた課題や第6期からの課題、また新たに発生した課題などがあり、編集委員会で丁寧に検討し解決しようと努めています。また、第6期に整えられた電子ジャーナルについては、会員には紙媒体冊子があるため、あまりアクセスの必要がないと思われそうですが、書誌事項へのアクセス件数は毎月800件前後となっており、その成果が現れて来ています。

本誌は、投稿・寄稿して下さる会員の方々はもちろんのこと、査読を担当して下さる専門委員にも多くを支えられています。専門委員の先生方には、年度末・年度初めや学期中など、いつもお忙しいなかを引き受けていただき、心から感謝しております。残り数ヶ月の任期となりますが、今後とも、皆さまのお力添えを宜しくお願い致します。
(田間泰子・大阪府立大学)

研究活動委員会

1. 第23回日本家族社会学会大会（2013年9月7日・8日）について

研究活動委員会は静岡大学（静岡キャンパス）で開催されます大会に向けて準備を進めております。4月1日付で会員の皆さまには第23回日本家族社会学会大会ニュース No.1をお届けしました。また、4月4日付で第23回大会オフィシャルサイトを開設しました (<http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2013/index.html>)。このサイトへは学会ウェブサイト の「学会大会／研究活動」から入ることができます。テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評ラウンジ等の申込みは4月末日で締め切りしましたが、自由報告の申込み締め切りは5月末日です。いずれも要旨原稿の締め切りは5月末日です。その他に、別刷交換コーナー、書籍販売コーナー、大会報告レジュメコーナーを設けます。

発表申込みは上記の大会オフィシャルサイト上で行ってください。その際にはマイページと同じID（会員番号）とパスワードが必要ですのでご注意ください。若手研究者から長年研究に携わってきた会員まで、多くの皆様からの申込みを歓迎いたします。また、大会参加申込は7月1日からウェブ上で行うことができます。すでに、大会ニュース No.1 でお知らせしましたように、大会シンポジウムのテーマは「地域社会と家族戦略」です。報告者は津富宏氏（静岡県立大学、NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡）、山地久美子氏（関西学院大学、災害復興制度研究所、NPO 法人神戸まちづくり研究所）、西森由美子氏（子育て支援 NPO 法人「ウイズネイチャー」、東日本大震災子育て家族支援ネット「神戸ばけっと net.」）、コメンテーターは神原文子会員（神戸学院大学）です。活発な討論が展開することを期待していますので、ふるってご参加ください。

2. 大会要旨集

昨年度の大会と同様に印刷物と電子媒体(大会オフィシャルサイトで公開)の要旨集を併用します。よって、要旨を作成する際にはこの点についてご注意ください。大会前に要旨集を読みたいという会員の要請に応じて、電子媒体(PDF)の要旨集は大会直前の9月4日に公開する予定です。

3. 2014年世界社会学会議・横浜大会での報告への呼びかけ

2014年7月13日から19日にかけて、横浜において国際社会学会(ISA)主催の第18回世界社会学会議(World Congress of Sociology)が開催されます。この大会では、あらかじめ募集され採択されたセッションに対して報告者が公募されます。家族研究委員会RC06で組織されるセッションについては、当学会NFRJ委員会から応募した2つのセッションがともに採択されました。日本で世界社会学会議が開かれるこの機会に、日本家族社会学会会員の皆様もぜひ報告への応募をご検討ください。

ISA全体としては6月から9月にかけて応募(要旨の提出)が受け付けられる予定となっていますが、各研究委員会ごとの締め切り日などの詳細はまだ発表されていないため、分かり次第今後メルマガなどでご案内いたします。また、ISAやRC06への会員登録に関する情報も、追ってお知らせします。

関連ウェブサイトは以下の通りです。

国際社会学会(ISA)	http://www.isa-sociology.org
世界社会学会議横浜大会	http://www.isa-sociology.org/congress2014/
家族研究委員会(RC06)	http://www.isa-sociology.org/rc06.htm
	http://www.rc06-isa.org

RC06に限らず、会員がオーガナイズするセッションがありましたら、随時、研究活動委員会国際交流担当中里英樹委員()までメールでご連絡ください。とりまとめてメルマガで情報提供いたします。(石井クンツ昌子・お茶の水女子大学)

庶務委員会

1. 会員の異動および会勢について

会員の異動は、2013年3月14日時点で、新規会員8名、退会7名、会費減額適用者57名(うち13名が65歳以上)。会員数は733名(一般会員567、学生会員108、減額申請適用会員57、賛助会員1)です。

岩川幸治会員、岡野あつこ会員、段東海会員の連絡先が不明となっておりますので、ご存じの方は事務局までお知らせください。

2. 会費納入状況について

3月14日時点での2012年度の会費納入率は88%です。近年納入率が低下し、2年以上の滞納により自動退会となった会員も増加傾向にあります。すみやかな会費納入にご協力ください。

3. 会費の減額申請について

65歳未満の会員については、毎年申請し承認を受ける必要があります。5月末が申請期限となっておりますので、お急ぎください。承認の連絡を受けてから、会費をお振り込みください。なお、65歳以上の会員の方は一度承認されれば、以後手続きの必要はありません。(宮坂靖子・奈良大学)

全国家族調査(NFRJ)委員会

1. 「全国家族調査パネルスタディ(NFRJ-08Panel)」の実査完了

「全国家族調査パネルスタディ(NFRJ-08Panel)」は、NFRJ08を起点(Wave1)とし、3回の郵送調査を経て、2013年2~3月に訪問留置法による大規模な追跡調査(Wave5)を行いました。調査には、NFRJ-08パネル研究会のメンバーも一部参加し、データの収集にあたりました。

1,881名で開始した本調査は、最終時点で1,778名を追跡し(残存率95%)、Wave5の回収率は依頼数に対し約9割でした。詳細については、データクリーニング後に報告いたします。

すでに蓄積しているデータを用いた成果の報告も始まっています。NFRJ-08パネル研究会は、年に2回のペースで研究会を開催し、パネルデータ分析の講習や成果の検討を行っています。研究会は公開しておりますので、関心をお持ちの方はぜひご参加ください。詳細は全国家族調査ウェブサイト(<http://nfrj.org>)をご参照ください。

2. 公開データ

これまでに実施した3回の全国調査データ(NFRJ98、03、08)はいずれも、東京大学社会科学研究所SSJデータアーカイブから一般公開しております。オンラインで利用できますので、さらに活発なご利用をお願い

します。また、成果の報告を忘れずに行ってください。

昨年度には、データの利用実績をふまえ、二次分析の推進に貢献したデータ寄託者として SSJ から表彰されました。

4月からは、都道府県情報を含むデータに更新して公開しています。08 データは他にも一部の内容がバージョンアップされていますので、利用中の方は SSJ からのメールをご確認ください。

学部生の卒業論文や講習会などの教育目的の利用のためには、引き続き NFRJ 委員会事務局が窓口になって学会員に限りデータを提供しています。SSJ の申請資格がない会員も、事務局に利用申請することができます。詳しくは事務局（ ）にご相談ください。

3. 世界社会学会議への参加

2014 年に横浜で開催される国際社会学会 (ISA) 主催の世界社会学会議で、NFRJ のメンバーがオーガナイズした 2 つのセッションが採択されています。RC06 で日本の家族データの分析成果をテーマとしたものと、RC06 と RC33 のジョイントで家族パネルデータの分析成果をテーマとしたものです (データは NFRJ に限定されません)。これから秋にかけて報告が募集されますので、活発な応募をお願いします。

4. 次の NFRJ18 に向けて

NFRJ の第 4 回調査は、2018 年度を予定しています。学会アンケートのご意見やこれまでの反省をふまえ、調査の単純な繰り返しではなく、家族研究として何が求められているのかを検討したうえでデザインを練る予定です。これからの家族調査には何が必要なのか、皆様からの率直なご意見やご提案を、そしてさらなるご参加、ご協力をお願いいたします。(西野理子・東洋大学)

社会学系コンソーシアム集大成事業編集委員会

社会学系コンソーシアムでは 2014 年の世界社会学会議において『Message to the World Sociologists from Japanese Scholars』という冊子を配布します。内容はコンソーシアム所属の各学会の歴史、現状、研究内容や世界へのメッセージとなる予定です。日本家族社会学会では渡辺秀樹会長の指名を受けて、池岡義孝会員、田淵六郎会員、中里英樹会員、石井クンツ昌子 (委員長) から成る編集委員会が設置されました。執筆は編集委員会が担当し、7 月 20 日までに社会学系コンソーシアム集大成事業編集委員会へ提出します。

(石井クンツ昌子・お茶の水女子大学)

事務局だより

宮坂靖子 (事務局長/奈良大学)

会員アンケートで、議事録についてご意見をいただきました。ニュースレターでは、紙幅の都合もあり簡略化に努めております。さらに詳しいことをお知りになりたい方は、事務局までお問い合わせください。

また、今期 (第 7 期) 理事会の任務も残すところ半年となりました。学会についてのご意見、ご要望がございましたら、事務局までご連絡ください (宮坂:)。 p

第 6 回日本家族社会学会賞 (奨励論文賞) について (経過報告)

牟田和恵 (研究活動委員会副委員長/大阪大学)

今年は 3 年に一度の学会賞 (奨励論文賞) 選考の年です。前回から、『家族社会学研究』誌以外のレフェリ一制のある学術雑誌に掲載された論文も、自薦・他薦により選考対象としています。現在、学会誌から 9 本、推薦 4 本の計 13 本の論文を対象に、選考委員会で審査しています。結果は 9 月の学会大会時に発表します。

会員アンケート結果

永井暁子（庶務委員／日本女子大学）

会員皆様のご協力により、「日本家族社会学会第4回活動点検会員アンケート調査」が終了いたしました。会員総数733名、有効回収数50（うち郵送回答1票）、回収率6.8%でした。残念ながら過去3回の調査に比べて最も低い回収率となりました。今後、より回答しやすい方法を検討し、会員の意見の集約に努めます。

詳しい調査結果は3月の理事会で報告され、現在、委員会ごとに、ご意見を今後の活動にどのように生かすかを検討しております。以下に、調査の単純集計結果と各委員会からのコメントを掲載いたします。アンケート結果の解釈については、回収数が少なかったことには十分配慮しておりますが、今回の調査について、ご意見やご質問がありましたら、事務局までお寄せください。

活動点検会員アンケート調査（単純集計結果）

◆調査時期 2012年11月5日～2012年12月25日

◆調査方法 マイページを経由したWeb調査（郵送法を併用）

◆有効回収数 50（有効回収率6.8%）

①パーセンテージのみを表示しています（注記のない限り、N=50）。

②複数回答の設問は、選択された回答のパーセンテージを表示。

③自由記述の回答は掲載しませんが、各委員会でご意見を参照させていただき、一部コメントに反映させていただきます。

◆【回答者の属性】

問1【年齢】29歳以下 8.0%、30～34歳 14.0%、35～39歳 14.0%、40～44歳 16.0%、45～49歳 24.0%、50～54歳 12.0%、55～59歳 10.0%、65～69歳 2.0%

問2【会員区分】一般会員 82.0%、学生会員 18.0%

問3【会員歴】入会后3年未満 22.0%、入会后3～5年未満 14.0%、入会后5～10年未満 16.0%、入会后10～21年未満 28.0%、家族社会学セミナー以来の会員（21年以上） 20.0%

問4【役員歴（複数回答）】会長・顧問、理事、会計監事 14.0%、複数年にわたる（専門）委員 34.0%、単年度の委員 26.0%、役員の経験はない 58.0%

◆【学会活動】

問5【大会参加頻度】ほぼ毎年参加している 68.0%、2・3年に1度位参加している 18.0%、あまり参加していない 6.0%、参加していない 8.0%

問6【2012年大会の企画で工夫や改善の必要性】特になし 92.0%、ある 8.0%

問7【企画してほしいテーマ】特になし 76.0%、ある 24.0%

問8【2012年大会時のシンポジウム企画で工夫や改善の必要性】特になし 88.0%、ある 12.0%

問9【2012年大会時のプログラム編成】特になし 90.0%、ある 10.0%

問10【大会ウェブサイト掲載の要旨集閲覧】閲覧した 60.0%、閲覧しなかった 40.0%

問11【大会要旨のウェブサイト掲載・紙媒体配布】特になし 88.0%、ある 12.0%

⇒研究活動委員会よりコメント

自由報告については、若手会員だけでなく多くの会員に報告してもらえよう、今後、大会ニュース・学会ニュースレター・メールマガジンで申し込みを促します。シンポジウム登壇者が偏らないように、学会外あるいは社会学以外の領域の研究者も含め、幅広く人選していきたいと考えています。シンポジウムのテーマは、政策提言につながるものも含め、アンケートで記入いただいた案も考慮に入れていく予定です。要旨集は、当面、大会ウェブサイト掲載PDF版と紙媒体の配布を併用いたします。（石井クンツ昌子）

◆【機関紙（『家族社会学研究』）について】

問12【読む程度】よく読む 14.0%、関心のある部分だけ読む 78.0%、あまり読まない 8.0%

問13【学術的水準】大変高い 2.0%、まあ高い 96.0%、あまり高くない 2.0%

問14【発行回数】1回で十分 24.0%、現行のままで良い 66.0%、少ない 10.0%

問15【論文・研究ノートを自由投稿経験】ある 50.0%、ない 50.0%

問16【投稿原稿（論文・研究ノート）・依頼原稿等の掲載経験】ある 48.0%、ない 52.0%

- 問 17 [学会ウェブサイトの「査読ガイドライン」の認知] 閲覧し、役に立った 38.0%, 閲覧したが、あまり役に立たなかった 2.0%, 知っているが読んでいない 38.0%, 知らなかった 22.0%
- 問 18 [投稿論文の査読制度についてのご意見・ご要望] 特になし 88.0%, ある 12.0%
- 問 19 [取り上げて欲しいテーマ] 省略
- 問 20 [電子ジャーナルの利用頻度] よく利用する 24.0%, ときどき利用する 28.0%, ほとんど利用しない 16.0%, 利用したことがない 32.0%
- 問 21 [電子ジャーナルについてのご意見・ご要望] 特になし 92.0%, ある 8.0%
- 問 22 [機関誌の編集方針についてのご意見・ご要望] 特になし 94.0%, ある 6.0%

⇒編集委員会よりコメント

学術水準について「まあ高い」とおおむね言っていただけたことは光栄です。査読過程については、回数を増やすことは現体制では難しいですが、修正期間の延長について今後検討していきます。投稿者、査読者両者のためにも、査読者の確保について今後とも努めます。投稿論文の質の向上に今後も一層注意喚起していきます。英語論文の査読については現状では難しいですが、機関誌内容、編集方針へのご意見とともに次期に申し送りたいと思います。(田間泰子)

◆【全国家族調査 (NFRJ) について】

- 問 23a [第 1 回全国家族調査 (NFRJ98) の認知度] 内容について知っている 78.0%, 名前だけ知っている 22.0%
- 問 23b [全国調査「戦後日本の家族のあゆみ」(NFRJ-S01) の認知度] 内容について知っている 42.0%, 名前だけ知っている 46.0%, ほとんど知らない 12.0%
- 問 23c [第 2 回全国家族調査 (NFRJ03) の認知度] 内容について知っている 66.0%, 名前だけ知っている 34.0%
- 問 23d [第 3 回全国家族調査 (NFRJ08) の認知度] 内容について知っている 52.0%, 名前だけ知っている 32.0%, ほとんど知らない 16.0%
- 問 23e [NFRJ08 パネル調査の認知度] 内容について知っている 64.0%, 名前だけ知っている 34.0%, ほとんど知らない 2.0%
- 問 24a [NFRJ データの質] 非常によい 18.0%, よい 62.0%, わからない 20.0%
- 問 24b [東京大学 SSI データアーカイブを通じたデータ公開] 非常によい 68.0%, よい 22.0%, わからない 10.0%
- 問 24c [実査終了から一般公開までの迅速さ (現在約 2~3 年)] 非常によい 36.0%, よい 34.0%, よくない 12.0%, 非常によくない 2.0%, わからない 16.0%
- 問 24d [ウェブサイトを通じての情報公開] 非常によい 40.0%, よい 52.0%, よくない 2.0%, わからない 6.0%
- 問 24e [調査項目の学会内での公募] 非常によい 34.0%, よい 46.0%, よくない 6.0%, わからない 14.0%
- 問 24f [NFRJ 実行委員の人選] 非常によい 20.0%, よい 36.0%, よくない 4.0%, 非常によくない 2.0%, わからない 38.0%
- 問 24g [学会員からの意見や要望の聴取] 非常によい 26.0%, よい 52.0%, よくない 2.0%, わからない 20.0%
- 問 24h [『家族社会学研究』での NFRJ レポート] 非常によい 18.0%, よい 36.0%, よくない 6.0%, 非常によくない 2.0%, わからない 38.0%
- 問 24i [家族研究への貢献 (研究会活動や学会大会でのテーマセッション)] 非常によい 34.0%, よい 50.0%, よくない 2.0%, 非常によくない 2.0%, わからない 12.0%
- 問 24j [NFRJ の成果の刊行 (『現代家族の構造と変容』『現代日本人の家族』など)] 非常によい 38.0%, よい 56.0%, よくない 2.0%, わからない 4.0%
- 問 24k [これまでの NFRJ 委員会のとりくみ全般] 非常によい 32.0%, よい 52.0%, よくない 2.0%, 非常によくない 2.0%, わからない 12.0%
- 問 25 [学会が主体となって公共利用データを作成していくこと] 今後とも必要 90.0%, 今後には必要ない 2.0%, どちらともいえない 6.0%, わからない 2.0%
- 問 26 [全国家族調査および全国家族調査委員会についてのご意見・ご要望] 特になし 84.0%, ある 16.0%

⇒全国家族調査 (NFRJ) 委員会よりコメント

総じて認知度、評価は高かったことに安堵しています。これまで研究成果の報告が少なかったのですが、

NFRJ08 終了後は調査期間を 5 年から 10 年に変更したので、研究会などを通して各自の研究成果公表を促進していきます。研究課題の設定について、次の NFRJ18 では、どのような課題に答えるか、オーバーサンプリングや対象層の拡大など、方法論的な課題を含めて、調査設計することを考えています。海外への情報発信について、ICPSR へのデータ寄託作業を進行中であり、2014 年の世界社会学会議・横浜大会ではテーマセッションを 2 つ開くことができました。今後も、海外雑誌への投稿などを奨励していきます。今後、組織のある程度の連続性は維持しつつ、3 期以上の重任を避けるなど、メンバーの交代をはかっていきます。(西野理子)

◆【学会ニュースレターについて】

問 27【学会ニュースレターを読む程度】めったに読んだことがない 2.0%、ときどき読んでいる 36.0%、ほぼすべて読んでいる 62.0%

問 28【学会ニュースレターの内容】大変よい 24.0%、まあよい 74.0%、あまりよくない 2.0%

問 29【学会ニュースレターについてのご意見・ご要望】特になし 96.0%、ある 4.0%

◆【学会ウェブサイトについて】

問 30【学会のウェブサイトを見た経験】見たことがない 14.0%、見たことがある 86.0%

問 31【ウェブサイトで情報を得られたことのある内容(複数回答)】学会大会についての情報 98.0%、『家族社会学研究』の投稿規定など 67.3%、学会賞関連情報 26.5%、過去のニュースレターの内容 28.6%、全国家族調査についての情報 59.2%、人事公募 20.4%、助成金の案内 24.5%、講演会・研究会の案内 38.8%、社会学系コンソーシアム関連情報 16.3%

問 32【学会ウェブサイトについてのご意見・ご要望】特になし 92.0%、ある 8.0%

◆【学会メールマガジンについて】

問 33【メールマガジンを読む頻度】ときどき読んでいる 28.0%、ほぼすべて読んでいる 72.0%

問 34【メールマガジンで配信する内容(複数回答)】人事公募 59.2%、講演会の案内 91.8%、研究会の案内 95.9%、助成金の案内 73.5%、大会の案内 87.8%、その他 10.2%

問 35【学会員の新たな交流の場(例えば、会員用のメーリングリスト)の開設】特になし 96.0%、ある 4.0%

◆【会員の個人情報について】

問 36【会員名簿の必要性】必要 76.0%、不要 24.0%

問 37【新入会員紹介欄の必要性】特になし 76.0%、ある 24.0%

◆【学会入退会・会費について】

問 38【入退会の方法についてのご意見・ご要望】特になし 100.0%

問 39【常勤職にない会員にむけての会費減免の制度の認知、ご意見・ご要望】知っている 86.0%、知らない 14.0%

問 40【会費金額や支払い方法、財務内容についてのご意見・ご要望】特になし 94.0%、ある 6.0%

◆【役員選挙について】

問 41【理事選挙の投票経験】必ず投票している 26.0%、投票することが多い 30.0%、投票しないことが多い 16.0%、一度も投票したことがない 28.0%

問 42【理事に関する意見(複数回答)】理事がどのような仕事をしているか、会員にはわかりにくい 64.4%、理事にはもっと若い人がなるのがよい 13.3%、理事にはなるべく年配の人がなるのがよい 8.9%、同じ人が 10 年以上理事をするのは望ましくない 64.4%、自分の選挙区だけでなく、他の選挙区の人にも投票できるほうがよい 40.0%、会長は理事だけの投票によるのではなく、一般会員全員が投票するのがよい 15.6%、理事選挙にはほとんど関心がない 22.2%

◆【学会全体】

問 43【日本家族社会学会のあり方や活動についてのご意見・ご要望】特になし 93.9%、ある 6.1%

⇒庶務委員会よりコメント

ニュースレター・学会ウェブサイトともによく読んでいただいていることがわかりました。今後もさらに有用な情報をわかりやすく発信していきたいと考えております。さらに、ウェブサイトの英語化についても、改善を図っていく予定です。理事の仕事については、ご存じない方も少なくありませんでしたので、ニュースレターや学会ウェブサイトなどの媒体や学会大会時の総会などを通して、情報を提供させていただくように努めたいと思います。(宮坂靖子)

会員異動

(略)

編集後記

本ニュースレターの記念すべき No. 50 が今期最後の号となります。今期の中に、ニュースレターのサイズを B5 版から A4 版へと拡大し、掲載写真やタイムリーな寄稿記事を増やすなど、本紙も少しずつ読みやすさを向上させてきました。前号の学会大会の報告記事にはかなりの数の会場風景写真を織り込み、好評をいただきました。今号には、次回大会会場となる静岡大学キャンパスの写真を掲載しました。雄大な富士山を背景にした広大なキャンパス風景の魅力は、モノクロの印刷版ではうまく伝わらないかもしれません。ぜひ、学会ウェブサイト上にあるカラーPDF 版をご覧ください。今号には、その次回大会関連の情報や会員アンケート結果などを掲載しております。大会までのスケジュールなどをチェックしてください。会員各位には、これまで本紙の編集・発行に様々なかたちでご協力・ご支援をいただき、心より感謝いたします。ありがとうございました。

(野沢慎司・明治学院大学)